

兵庫県の状況

県下ではこれまで尼崎市立地域研究史料館（昭和50年）、神戸市立文書館（平成元年）が設置されたのについて、伊丹市が文書館の建設を計画中である。

伊丹市は昭和40年の市制25周年をきっかけとして市史編集事業を発足させ、編纂がほぼ終了した昭和47年に、収集した史料を保存するための施設として伊丹市立博物館を建設した。こうして近世および合併町村の近代文書は博物館で保存されてきたが、市の公文書はその対象に入っていなかった。そこで、情報公開の必要性から昭和57年以降、市制施行以後の公文書の整理と保存について検討を重ねてきた。

それが具体的な文書館構想となるには数年を要したが、まず平成元年3月に、伊丹市文書館設置専門委員会が「文書館設置について」とする答申により、公文書保存の必要性を打ち出し、引き続いて平成元年9月に伊丹市文書館基本構想専門委員会が「伊丹市立文書館（仮称）の基本構想について」とする答申をだした。ここには、設置の必要性、事業内容、公文書の公開、対象文書、施設、収集保存体制、専門職員等について意見が述べられている。収集する史料は、公文書、古文書のほか、地域にある企業文書も対象としているのが特徴である。また施設規模のうち書庫にウェイトを置き、少なくとも20年程度の蓄積に耐えるスペースを持ち、将来の収蔵計画については別途考慮するとしている。

市側はこれを受けて、旧市街から少し離れた市役所・図書館・公民館や市の施設が集中する伊丹市千僧に建設する予定で、平成3年度から基本計画策定に着手する。